

横浜市病院協会 令和2年度第1回地域医療検討会開催結果概要

1 開催概要

国は、すべての医療機関が地域医療構想調整会議に参加することが難しい場合には、構想区域の実情に合わせて医療機関同士の意見交換等の場を組み合わせながら実施するなどして、より多くの医療機関の主体的な参画が得られるよう進めていくこととしています。

神奈川県は神奈川県病院協会に委託して各地域において検討会を立ち上げることとし、横浜市病院協会は今後の医療需要の増加を踏まえ、地域で必要となる医療機能等について、幹事病院を定めてエリアごとに地域医療検討会を平成30年度から開催しています。

本年度も引き続き開催し、各医療機関で話し合いを行いました。

2 議題等

(1) 情報共有・意見交換

- ①地域の状況（病床機能報告から）について
- ②病床整備について
- ③その他

3 会議の状況

各エリア共通

- ・増床を計画している医療機関・機能転換する医療機関の計画を共有し、意見交換を行った

南西部	開催日時	2年7月10日 (金) 19:00~	○2018(平成30)年度に配分した病床の整備状況を踏まえる必要がある
	参加病院数	19病院	○病床配分を受けた医療機関等(4病院)の整備状況が共有された ○増床の計画が共有された 2病院(地域包括ケア20床、療養36床) ○増床計画に対して反対意見はなかった ○機能転換計画が共有された 1病院(慢性期53床→急性期) ○転換計画に対して必要性を確認していく必要があるとの指摘があった ○COVID-19の状況の共有と院内発生時チェックリストの情報提供、抗原検査キットに関する意見交換があった
南部	開催日時	2年7月13日 (月) 15:00~	○増床を計画している病院はありませんでした。 ○転換計画等の状況が共有された
	参加病院数	20病院	転換：1病院(急性期43床→回復期) 再稼働：1病院(慢性期：34床) ○転換計画等に対して意見はなかった ○新型コロナウイルス感染症の影響について意見交換があった ○外来・入院とも影響があり、患者が減っている ○患者数が中々回復しない。経営に大きな影響がある ○行政の経営支援を期待する

西部	開催日時	2年7月17日 (金) 14:30~	<p>○増床計画が共有された 4病院(地域包括ケア:50床、回復期リハ:150床、療養:180床)</p> <p>○病床配分を受けた医療機関等(1病院)の整備状況が共有された</p> <p>○転換計画が共有された 2病院(療養病床43床→介護医療院、急性期9床→地域包括ケア)</p> <p>○在宅医療の進歩、コロナによる患者減を考えると、基準病床(増床)が本当に必要なのか議論が必要である</p> <p>○また、増床するための人材の確保が大きな課題であり、ニーズにどのように対応するかよく考える必要がある</p> <p>○コロナの中でも、慢性期の稼働率は落ちていない。急性期は考える必要がある</p> <p>○コロナの影響はあったが急性期の患者も戻ってきている。緩和ケアは空床がある</p> <p>○2018年(平成30)に配分を受けた病床を返還している病院の計画の実現性を確認する必要がある</p> <p>○また、大規模な増床の人材確保計画を確認する必要がある</p> <p>○増床計画について了承された</p>
	参加病院数	21病院	
北東部	開催日時	2年7月17日 (金) 15:00~	<p>○2018(平成30)年度に配分を受けた病床を返還する経緯が説明された</p>
	参加病院数	17病院	<p>○増床計画が共有された 2病院(地域包括ケア:30床、療養病床:168床)</p> <p>○増床計画に対して反対意見はなかった</p> <p>○転換計画の状況が共有された 3病院(療養病床204床→障害者・介護医療院、急性期17床→地域包括ケア)</p> <p>○急性期から地域包括ケアへの転換を検討している病院があった</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の院内感染について報告があった</p>
北部	開催日時	2年7月27日 (月) 15:00~	<p>○増床計画が共有された 3病院(回復期リハ150床、地域包括ケア30床、療養168床)</p>
	参加病院数	16病院	<p>○増床計画に対する意見はなかった</p>
東部	開催日時	2年7月27日 (月) 17:00~	<p>○横浜市の病床配分(感染症対応病床)の考え方に関する確認があった</p>
	参加病院数	16病院	<p>○パンデミック発生時の市の要請に応えることを担保する仕組みが必要であるとの指摘があった</p> <p>○増床計画等が共有された 2病院(療養病床4床、地域包括ケア60床) 1病院(急性期△7床(2026年度))</p> <p>○機能転換計画が共有された 5病院(急性期124床→地域包括ケア、回復期・慢性期、慢性期54床→急性期、高度急性期1床→急性期)</p> <p>○地域包括ケア病床機能について確認があった(自院での活用)</p>

			<p>OR 他院からの転院・在宅からの受入)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○東部エリアは病床の少ない地域であり、回復期病床は不足している ○連携のパートナーとして市内医療機関の増床が望ましい ○増床計画について了承された ○慢性期から急性期への転換については改めて協議する必要があるとの指摘があった ○新型コロナウイルス陽性患者の転院調整について確認があった(Y-CERTの機能と広域調整) ○第2波に備えて感染対策の実施による患者受入強化の要請があった ○入院患者に対するPCR検査について情報交換があった
中心部	開催日時	2年7月28日 (火) 15:30～	<ul style="list-style-type: none"> ○増床を計画している病院はありませんでした ○病機能報告上の区分の考え方について確認があった
	参加病院数	24病院	<ul style="list-style-type: none"> ○基準病床数の算定における新型コロナの影響に関する考え方について確認があった ○各病院の状況について共有された <ul style="list-style-type: none"> 2病院(急性期80床→地域包括ケア、回復期・慢性期) 1病院(回復期リハ50床増床計画あり)、2病院(5床休床中、高度急性期を増やす方向)、2病院(病床配分を受けた病床の整備状況) ○機能転換についても、地域医療構想調整会議への付議が必要であることが周知された

5 まとめ

- 地域医療検討会において示された増床計画(2020年度配分希望)は以下のとおりでした。
 - 7病院：468床(回復期リハ150床、地域包括ケア110床、療養208床)
- 上記の増床計画に対しては、反対意見はありませんでしたが、以下の指摘がありました。
 - ・2018年に配分を受けた病床について、計画どおり進んでいないものもあることから、その整備状況を把握・確認した上で検討する必要がある。
 - ・新型コロナウイルス感染症の影響等を踏まえた議論(特に急性期)が必要である
 - ・人材(医療・介護)の確保が課題であり、増床の際の確保計画に留意が必要である
- 機能転換計画等についても共有が図られた
 - ・急性期：7病院213床→地域包括ケア、回復期・慢性期
 - ・慢性期：2病院187床→介護医療院
 - ・慢性期：2病院107床→急性期
 - ・その他(転換：高度急性期1床→急性期、慢性期60床→障害者)
 - ・増(減)床構想：増床50床(回復期)、減床△7床(急性期)
- 慢性期から急性期への転換については、十分な協議が必要であるとの指摘がありました。
- 新型コロナウイルス感染症対応に関する情報交換が行われました。